



令和2年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ

長野高等学校 学校長だより

(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和2年
No 5

7月15日(水)

金鷄祭開催できました。関係の皆さんお疲れ様でした。そして感謝

7月3日(金)と4日(土)に金鷄祭を開催できて本当に良かったと思います。6月から登校できるようになってからの短い準備期間、新型コロナウイルス対応の中での開催、という例年になかった計画と実施ということで、執行部の皆さんは本当に大変だったと思います。前例のない事を行う、何が答えか分からない等々、まさにこれからの時代に求められている「変化の激しいこれからの社会に対応する」「答えのわからない問いにどう解答を導くか」などを実践したとも言えると思います。

もともとこのような行事を行う意味の一つに、プロジェクトを推進する事で、意見の相違のすり合わせ、段取りの組み方を経験するという等の面があることからすると、雨の状況への対応を含めて、良い経験として前向きに捉えて欲しいなと思います。『実施できただけでも良かった』『正直、個人的には不完全燃焼』『満足度は50%程度』『後輩からの「ありがとう」との声が嬉しかった』等、役員の方の何人かの感想を聞きましたが、複雑な思いがあるのが本当のところだと思います。でも、とにかく、この企画を推進して実行した皆さんに、そしてこの行事に関わったすべての皆さんに、そして暖かく見守って頂いた保護者の皆さんに、開催できましたことに御礼申し上げます。ありがとうございました。(一般公開がなかったため、保護者の皆さんにはご覧いただけませんでした。保護者の皆さんに動画配信等の手段も考えられますが、著作権等の問題や準備に時間がなく配信の想定をしていなかったこともあり、簡単にはできない状況です。)



運動会開会式 選手宣誓 (with 恐竜)

大変な状況(コロナ・豪雨等)に想いを寄せよう

金鷄祭に限らず、新型コロナウイルス感染症について、その感染に対する直接的な不安以外に、感染症への対策や対応で思い通りにならないことや今後の予定が見通せないことなど、我々だけでなく世界の人々が同様にストレスを抱えているのが現状です。さらに日本各地で豪雨による災害が発生しています。このような世情の中で、意見や主張が先鋭化しがちで、結果的に私たちの世界に「不満」「反感」「攻撃」などの風潮が広がる危険性が満ちています。当然、そのような危険を私たちは回避しなければなりません。そのためには私たちは冷静に対応しながら、気持ちや支援等の「繋がり」や「共感」によって私たちが住む世界に嫌な風潮が広がるのを防がなければいけません。校長としても、本校の教育活動が前述の「繋がり」や「共感」に繋がるように留意していく所存です。



① 長野県南部でも豪雨による高校の休校と行事の変更

先週から日本各地で豪雨被害が続出していますが、昨年、台風19号の被害を身近に経験した者として、被災地に思いを馳せ、また被害者の気持ちを慮る人でありたいと思います。特に先週7日(火)からの豪雨のため長野県中南部でも被害が発生し、飯田線が不通となり、休校措置や文化祭等の行事の延期が余儀なくされる高校もありました。同じ長野県の高校教育を担う身として他人事ではない思いがあります。(裏に続く……)

② 先生方へは以下のようにお願いしています。(昨年度の「学校長だより」にも掲載)

災害に限らず、身近な弱者や立場の異なる者に対する目線も思慮深い配慮が必要です。当然、先生方の生徒への目線も同様であり、昨年と同じく先生方には以下のような生徒の皆さんへの姿勢をお願いしています。

- 1 生徒一人一人を大切に、生徒は変わりうるもの、その可能性を見限らない
○生徒を「見下さない」、「見落とさない」、「見逃さない」、「見捨てない」
○個々の教員だけでなく、教員集団で対応、学年・係などで連携を
- 2 学校の主体は授業、どれだけ充実した授業ができるか
○一方的な授業から双方向の授業へ、インプットだけでなくアウトプットも
○社会との接点を意識した授業、正解のない問をどのように解くか
- 3 子供たちと一緒に成長する先生、先生はその生き方を含めて生徒の手本
○日々の教育実践の積み重ね、その中で試行錯誤する姿
○生徒は先生をよく見ている、教育公務員としての自覚



③ 「心の健康相談」「SC(スクールカウンセラー)」で相談できます。

今年は例年と異なる学校生活の中で「うまくいかない」「不安だ」等の思いがある人は、遠慮せずに、できるだけ早く担任の先生等(校長でも結構です)に相談してください。本校では「SC」への相談以外に専門の先生(医師)に来校して頂き、相談する仕組み「心の健康相談」があります。このような制度を利用するのに躊躇しないでください。

④ 県経営者協会等に「高校生のための就職枠拡大等に向けた要請」

校長(宮本)は本年度、北信の高等学校長会の会長を務めるとともに、長野県高等学校長会の副会長を同時に努めている関係で、7月10日(金)と17日(金)に経済4団体に標記のお願いを校長会として行ってきました(きます)。長野県の高校生の約20%は就職希望であり、高卒後、長野県の生産や消費を担う一員となります。今年は、感染症の影響で企業の求人の動向が読めない、という状況のようですが、その中で一段の配慮をお願いしてきました。

NGPコンソーシアム担当者会議を開きました。

NGP事業は正式には、文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」と言います。その名称の「地域との協働」という部分にあるように、長野県・長野市・県教育委員会・信州大学教育学部・工学部・県立大学・東京海上日動火災保険・長野青年会議所・八十二銀行・同窓会、でコンソーシアム(共同事業体)を組織して、連絡と協力をお願いしているところです。今回は、具体的には2年生のFW(フィールドワーク)先としての協力や訪問先の開拓支援、研究の援助等をお願いしました。



ホテル信濃路で長野高校新聞部展示

ホテル信濃路(長野中御所)では1階のロビーを「アールスペース」として学校(小中高)での文化活動を紹介するイベントを行っています。7月からは本校の新聞部の活動が写真のように展示されていますので、ご紹介します。



(生徒の皆さんは、この学校長だよりを読んだあと、保護者の方に渡してください)